

# 「平成30年度全国学力・学習状況調査」の結果について

【富里市立富里南小学校】

平成30年4月17日(火)に、小学校第6学年全児童、中学校第3学年全生徒を対象として、「全国学力・学習状況調査」が実施されました。本校の実施結果についてお知らせします。

## 1 児童が受けた調査について

「国語A・B」、「算数A・B」、「理科」、「児童に対する質問紙調査」の調査が実施されました。それぞれの内容は下記のとおりです。

### (1) 教科に関する調査

〔主として「知識」〕 国語A, 算数A, 理科	〔主として「活用」〕 国語B, 算数B, 理科
身につけておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能など	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力など

出題範囲：調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則

### (2) 児童に対する質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

\*調査問題は「国立教育政策研究所」のHPで閲覧できます。

<http://www.nier.go.jp/18chousa/18chousa.htm>

## 2 本校児童の調査結果

本校児童の調査結果及び分析は以下のとおりです。

### (1) 教科の正答率について (※ 全国公立小学校の平均正答率(以下全国平均)との比較)

国語A(知識)	基礎的な言語活動や言語事項に関する知識・技能に関する問題	C
国語B(活用)	基礎的な知識・技能を活用する問題	C
算数A(知識)	数量や図形についての基礎的・基本的な知識・技能に関する問題	C
算数B(活用)	基本的・基礎的な知識・技能を活用する問題	C
理科(知識・活用)	『知識』に関する問題及び『活用』に関する問題	C

☆ 全国平均正答率との比較について

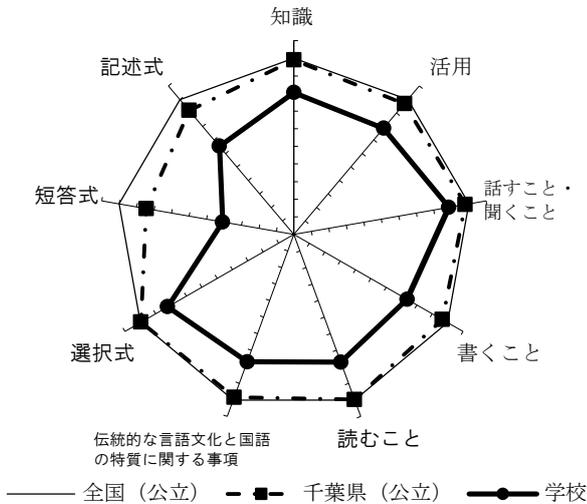
A：+5.0%より上回っている場合「良好」

B：+5.0%～-5.0%の場合「ほぼ同じ」

C：-5.0%より下回っている場合「要改善」

## (2) 教科ごとの分析

### 国語



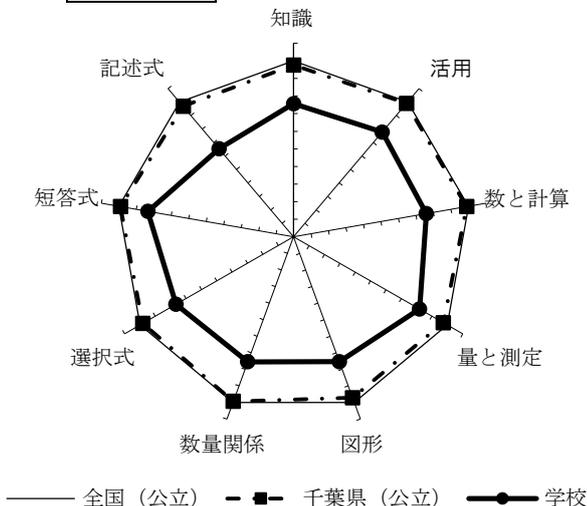
#### 【特徴と現状】

- 「主として知識」「主として活用」の両方にわたって全国平均を下回っています。
- 「言語についての知識・理解・技能」では、主語と述語との関係に注意して文を正しく書いたり、相手や場面に応じて敬語を正しく使ったりする力が不足しています。
- 「読む能力」では、目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかくむ力が、「話す・聞く能力」「書く能力」と比べて低い傾向にあります。

#### 【改善方策等】

- 文を書くに当たって、主語と述語の関係だけではなく、修飾と被修飾の関係や、「だれが」「いつ」「どこで」「なにを」「どのように」「なぜ」など、文の構成について理解することができるように学習活動を工夫していきます。
- 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読み、読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする活動を積み重ねていきます。

### 算数



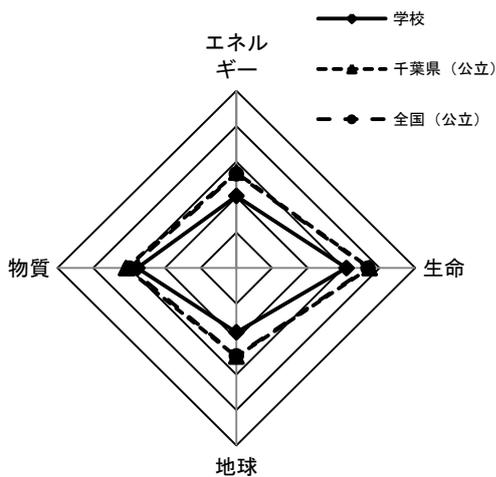
#### 【特徴と現状】

- 「主として知識」「主として活用」の両方にわたって全国平均を下回っています。
- 「数量関係」の中の「数量や図形についての知識・理解」では、小数の除法の意味についての理解力が不足していて、1に当たる大きさを求める問題で、除数が小数の場合でも除法を用いることができる児童が少ないです。
- 「数量関係」の中の「数学的な考え方」では、示された条件を解釈し、それに着目して棒グラフの変化を読み取り、記述する力が不足しています。

#### 【改善方策等】

- 公式や言葉の式だけでなく、問題の場面を数直線や図などに表したり、具体的な場面に当てはめて調べたりする活動を設定して指導します。
- 計算の仕方を考えたり、考えを表現したり、既習事項を基に自分の考えを説明したりする活動を積み重ねていきます。
- グラフの読み取りは、算数科だけでなく社会科や理科でも学習します。グラフから読み取った変化の様子や、気づいたこと、考えたこと等をノートにまとめる活動を充実させます。

## 理科



### 【特徴と現状】

- 「主として知識」「主として活用」の両方にわたって全国平均を下回っています。
- 「地球」区分の中の「科学的な思考・表現」では、流れる水の働きによる土地の浸食について、実験結果を基に分析して考察し、その内容を記述する力が不足しています。
- 「生命」区分の中の「科学的な思考・表現」では、人の腕が曲がる仕組みについて、模型を使って説明する力が不足しています。

### 【改善方策等】

- 「科学的な思考・表現」の力をつけるために、子どもに観察・実験を行わせる前に「何を調べるために行うのか」「どのような方法で調べるのか」「結果はどうか」を考えさせ、目的意識をもたせてから観察・実験に取り組みさせます。
- 子どもに既習事項がなく生活経験もほとんどない場合は、問題となる事象を見せるだけでなく、実際に体験させてみるなど五感を使わせる活動を重視していきます。

### (3) 児童質問紙の結果及び分析

- 「自分には、よいところがあると思うか」「将来の夢や目標を持っているか」という質問に対して全国比で+12ポイントです。児童が前向きに学校生活を送っている様子がわかります。
- 家での学習の取り組みについて、全国比で見ると、
  - ・自分で計画を立てて勉強している。－7ポイント
  - ・学校の宿題をしている。－11ポイント
  - ・授業の予習・復習をしている。－8ポイントと低い状況です。勉強時間も少ないので、家での取り組みの向上が課題です。
- 「学校のきまりを守っている」と回答した児童は85%いますが、全国比で見ると－4ポイントです。規範意識の向上が課題であることがわかります。

## 3 まとめ

- 根拠となる事柄をもとに、必要な内容を整理して書くことを苦手とする児童が多いです。記述式の問題の無解答率は、選択式の問題のそれよりも高くなっています。国語に限らず、すべての教科の学習において、「予想」や「まとめ」などで自分の考えを書く経験を積み重ねていきます。また、「書く力」をつけるには「読む力」が必要です。読解力を高めるために、教科書や簡単な新聞記事などを自分の言葉で要約する練習を家庭学習にも取り入れることで、文章のキーワードや主題をつかむ力を伸ばしていけるとと思います。
- 読書は好きですが、1日の読書時間が30分以下の児童の割合は全国平均より高くなっています。読書を1時間以上する児童の正答率は、30分以下の児童と比べて高いので、日々の読書の積み重ねで語彙を豊富にし、課題解決に必要な集中力も養っていきたいです。